ALINCO

DJ-190
取扱説明書

ALINCO DJ-190をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。また、この取扱説明書は必ずお手元に保存してください。ご使用中に不明な点や不都合が生じたときは、この取扱説明書をご覧ください。

BNCアンテナコネクター
コネクター上部にアンテナを挿入し、カチッという音がするまで右に回します。

F(ファンクション)キー
(F)キーと他のキーを組合わせることで、様々な機能を使用できます。

PTTキー
PTTキーを押すと送信します。PTTキーを離すと、受信に切り替わります。

LAMP(H/L)/SCANキー
- LAMPキーを押すと、ディスプレイ部が点灯します。LAMPキーを離すと、5秒後に消灯します。
- LAMPキーを押しながら電源を入れると、ディスプレイが点灯したままになり、LAMPキーを押すたびに点灯・消灯が切り替わります。
- LAMPキーを3秒間押し続けるとスキャンモードに切り替わります。本機のスキャンは5秒のタイマースキャンです。PTTキーを押すとスキャンは停止します。スキャン方向はスキャンを始める前にダイヤルを動かした方向になります。
- (F)キーを押しながらLAMPキーを押すと、送信出力をLOWパワーモードに変更します。**L** が表示され、LOWパワーモードになります。**L** が表示されていないときは、HIGHパワーモードです。(同じ操作をくり返すとHIGHパワーモードに戻ります。)

MONI(MONITOR)/BS機能
(MONI)キーを押すと、スケルチが開き受信音が聞こえます。
(MONI)キーを押しながら電源を入れると、BS機能(省電力機能)を実行します。ディスプレイにbS-oF(切)またはbS-on(入)が約3秒間表示され、BS機能のON/OFFを示します。
PTTキーを押しながら(MONI)キーを押すとピーという音を送信でき相手局の注意を促すことができます。(呼出ピー音)

SP端子
3.5mmのモノプラグを使用して、外部スピーカー(8Ω)を接続します。

MIC端子
2.5mmステレオプラグを使用して、外部MIC(2kΩ)を接続します。

ダイヤル
ダイヤルを回して、送信/受信周波数、メモリーチャンネル、オフセット周波数、トーン周波数を選択します。
(F)キーを押しながらダイヤルを回すと、1MHzずつ周波数を増減できます。

送信/受信LED
PTTキーを押すと、送信になりLEDが赤に点灯します。スケルチが開いたとき(受信時)は緑に点灯します。

DCジャック
外部電源接続端子です。当社オプションのアクティブフィルター付シガーライターケーブルEDC-36を接続し、車中で使用できます。ジャックの極性は、ピン中央が+極、ピン外部が−極です。なお外部電源を使用する場合はDC4.8V〜DC13.8V、2A以上の安定化電源を使用してください。

本機は日本国内専用モデルですので、外国では使用できません。
この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

ALINCO アルインコ株式会社

PS0285

6 セットモードを使うには(2)

オフセット
シフト(次項参照)の幅を設定します。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. F *.*.* が表示されるまで、▲・▼キーを押します。(*.**:MHz単位のオフセット周波数)
3. ダイヤルを回して、オフセット周波数を設定します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

注意
オフセットを設定しても次項のシフトで+または−の表示が出るようにしないとオフセットは実行されません。

シフト
受信周波数に対して、送信周波数をオフセット分ずらします。+は上方向に、−は下方向に送信周波数をずらします。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. ShIFt (SHIFT)が表示されるまで、▲・▼キーを押します。
3. +または−の表示が出るまでダイヤルを回します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

トーンエンコーダ・トーンスケルチ(CTCSS)
送信側でトーンエンコーダを設定し、送信時に微少トーンを音声に含ませます。受信側は、トーンスケルチを使用して、トーンを検出してからスケルチを開けます。これらの機能により不必要な受信を防ぐことができます。トーンスケルチを使用するには、オプションのEJ-28Uをセットしてください。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. t-SqL が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回して、T が表示されると、トーンエンコーダがONになります。
   T SQL が表示されると、トーンエンコーダとトーンスケルチの両方がONになります。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

トーン周波数
本機には、50種類のトーン周波数があります。通信するには、トーンエンコーダ(送信側)のトーンと、トーンスケルチ(受信側)のトーンが同じである必要があります。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. t 88.5 が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回して、周波数を設定します。t 88.5 のときは、トーン周波数は88.5Hzになります。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

注意
トーンエンコーダまたはトーンスケルチが無効のとき(T や T SQL が表示されていないとき)は、トーン設定は動作しません。

6 セットモードを使うには(3)

オートパワーオフ(APO)
操作が30分間おこなわれないときに、自動的に電源をOFFにすることができます。
自動的に電源がOFFになる直前に、モールスで・ −・ −・・ という音がします。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. APo が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回すと、APo の上に小さな文字で **APO** が表示されたり、消えたりします。
   オートパワーオフを実行しないときは、**APO** の表示が消えるまでダイヤルを回します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

ビジーチャンネルロックアウト(入感時送信防止)
受信中の周波数を他局が使用しているときは、送信を禁止します。
ビジーチャンネルロックアウトがONのときは、次の場合のみ送信できます。
(1) 信号の入感がないとき(BUSYが表示されない)
(2) トーンスケルチ動作中に、同一トーンを受信しているとき

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. Lo-oF が表示されるまで、▲・▼キーを押します。
3. ダイヤルを回して、Lo-oF(OFF)または Lo-on(ON)を選択します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

タイムアウト・タイマー(TOT)
1回あたりの送信時間を制限できます。一定の送信時間を超えると、自動的に送信が停止され受信を再開します。1回あたりの送信時間は、30秒から450秒(7.5分)の間で、30秒単位で設定します。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. t-***(***は送信時間(秒)または oFF)が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回して、制限時間を設定します。
4. PTTキーを押して、終了します。

TOTペナルティ
1回当たりの送信時間がタイムアウト・タイマーの設定時間を超えると、その後の送信を数秒間禁止します。1回あたりの禁止時間を、1秒から15秒の間で設定できます。この設定は上記のTOTが設定されている場合のみ有効です。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. tP-**(**:秒単位の禁止時間)が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回して、禁止時間を設定します。
4. PTTキーを押して、終了します。

【次ページへ続く】

1 使用上の注意

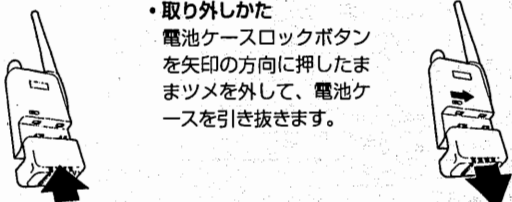
- ケースのカバーを外さないでください。故障の原因になります。
- 直射日光に当たる所、ほこりの多い所、暖房器具の近くで使用したり保管したりしないでください。
- 本機は、テレビ・チューナーなど、他の機器に影響を与えるときがあります。影響が出ないところで使用してください。
- 付属のアンテナは、本体に完全に取りつけてから使用してください。
- 車載時の電源には、必ず専用のアクティブフィルター付シガーライターケーブル(EDC-36)をご使用ください。
- ハイパワーモードで長時間送信しないでください。本機が過熱して、故障の原因になります。
- 煙が出たり異臭がするときは、すぐに電源スイッチを切り、販売店または最寄りの当社サービス窓口へご連絡ください。

> **⚠警告** ハムバンド近くでは、多くの業務用無線局が運用されています。業務用無線局の近くで電波を発射すると、アマチュア無線局が電波法令を遵守しているに関わらず、思わぬ電波障害を起こすことがあります。移動運用の際には十分ご注意ください。特に、航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局、およびそれらの中継局周辺での運用は行わないでください。運用が必要な場合は、管理者の承認を得てください。

2 電池を取りつけるには

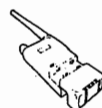
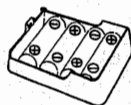
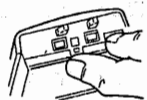
ニカドバッテリーパックの取りつけかた・取り外しかた

・取りつけかた
電池ケースを本体の溝に合わせ、矢印の方向にカチッと音がするまで押し込みます。

・取り外しかた
電池ケースロックボタンを矢印の方向に押したままツメを外して、電池ケースを引き抜きます。

オプション電池ケースEDH-16のセット

1. 電池ケースの上部のツメを外して上方向に引き上げ、電池ケースを開きます。

2. 市販の単3型アルカリ乾電池4本を、電池ケース内の+−にあわせてセットします。

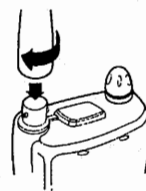
3. 電池ケースを手順1で外したツメに合わせ、底の方をカチッと音がするまで押します。

> **注意**
> - 市販のニカド電池は使用しないでください。
> - 電池は同じ種類の新しいものを使用してください。なお、長時間運用する場合は、アルカリ電池を使用してください。マンガン電池、アルカリ電池は混ぜて使用しないでください。 B が表示されずに電源が切れる場合があります
> - 電池容量が少なくなると、ディスプレイ上に B が表示されます。早めに電池を交換してください。なお、送信時はバッテリーの残量の更新がされないので、 B が表示されずに電源が切れる場合があります。

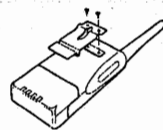
3 付属品について

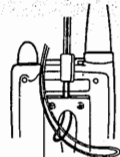
パッケージを開けて、付属品の確認をしてください。

- EBP-37N(4.8V 700mAH)<Ni-Cd蓄電池> ・・・・・・・・・・・・・ 1
- EDC−62<バッテリーチャージャー> ・・・ 1
- アンテナ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ベルトクリップ(ネジ2本) ・・・・・・・・・ 1
- ハンドストラップ ・・・・・・・・・・・・・ 1
- 取扱説明書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

アンテナの取りつけかた

アンテナの根元を持ち、アンテナの溝をアンテナコネクターの溝に合わせて差し込みます。
アンテナを時計方向に回して固定します。
アンテナを取り外すときは、反時計方向に回します。

ベルトクリップの取りつけかた

ネジ2本を使用して、本体の後側に取りつけます。

ハンドストラップの取りつけかた

ベルトクリップと溝の間に取りつけます。

4 各部の名称と使用方法

電源スイッチ

電源スイッチを押すと、電源のON / OFFができます。

▲(音量アップ)キー

▲キーを押すと、VOLが表示され、スピーカーの音量が上がります。
F キーを押しながら▲キーを押すと、VFOモードとメモリーモードを切り換えます。
メモリーモードのときは、ディスプレイ上にMと、メモリーチャンネル番号が表示されます。

▼(音量ダウン)キー

▼を押すと、ディスプレイ上の中間上部にVOLが表示され、スピーカーの音量が下がります。
表示されているVFO周波数をメモリーチャンネルに記憶させるには、VFOモードで F キーを押しながら▼を押します。
記憶したVFO周波数を消去するには、メモリーモードで F キーを押しながら▼を押してください

MIC

MICからは約10cm離れて話してください。

ディスプレイ

本マニュアルの「ディスプレイについて」を参照してください。

5 ディスプレイについて

ディスプレイには、本機の状態が表示されます。

①F	F キーを押している間に、表示されます。
②T	トーンエンコーダーを使用しているときに、表示されます。
③T SQL	トーンスケルチを使用しているときに、表示されます。
④KL	キーロックを使用しているときに、表示されます。
⑤FL	周波数ロックを使用しているときに、表示されます。
⑥+ ⑦−	オフセット周波数が、受信周波数から上向き(+)か下向き(−)かを示します。
⑧APO	オートパワーオフを使用しているときに、表示されます。
⑨VOL	音量を調整しているときに、表示されます。
⑩SQL	スケルチを調整しているときに、表示されます。
⑪M	メモリーモードのときに、表示されます。
⑫88	メモリーチャンネル番号・音量・スケルチを調整しているときに、表示されます。設定値(最小値:0、最大値:31)が表示されます。セットモードではメニュー番号が表示されます。
⑬145.00	送信/受信周波数やオフセット周波数、トーン周波数およびチャンネルステップを表示します。
⑭L	LOWパワーモードのときに、表示されます。
⑮B	電池残量が少ないときに、表示されます。
⑯BUSY	信号を受信しているか、スケルチが開いているときに表示されます。(トーンスケルチ実行中は、 BUSY が表示されていても、トーン信号が一致する信号を受信しなければ、スケルチは開かず受信音は聞こえません。)
⑰.(小数点)	スキャンモードのときに点滅します。
⑱★★★★★	送受信の強度を表示します。

6 セットモードを使うには(1)

スケルチ

1. F キーを押しながら MONI キーを押します。
2. SqLch (スケルチ)が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. 雑音が聞こえなくなるまで、ダイヤルを時計回りに回します。
4. PTTを押して設定を終了します。

KL キーロック/FL 周波数ロック

1. F キーを押しながら MONI キーを押します。
2. LoC が表示されるまで、▲・▼を押します。
3. KLまたはFLが表示されるまで、本機右上にあるダイヤルを回します。
   キーロック/周波数ロックを実行しないときは、手順3でKL・FLの表示が消えるまでダイヤルを回します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

> **注意**
> キーロック機能を実行しているときは、以下の動作ができません。
> - V/M(VFOモードとメモリーモードの切り替え)
> - H/L(HIGHパワーモードとLOWパワーモードの切り替え)
> - MW(メモリーライト機能)
> - スキャン機能
> - ダイヤルによる周波数の変更(周波数ロック時のみ)

チャンネルステップ

チャンネルステップとは、VFOモードでダイヤルを回したときに増減する、最小単位の周波数のことです。

選択できるチャンネルステップは5、10、12.5、15、20、25、30kHzです。

1. F キーを押しながら MONI キーを押します。
2. St ＊＊＊(＊＊＊:kHz単位のチャンネルステップ)が表示されるまで、▲・▼を押してください。
3. ダイヤルを回し、チャンネルステップを選択します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

6 セットモードを使うには(4)

【前ページより続く】

呼出しビー音

呼び出しビー音を「OFF」にすることができます。

1. (F)キーを押しながら、(MONI)を押します。
2. tb-onが表示されるまで▲・▼を押します。
3. ダイヤルを回して、tb-oFを表示します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

ビープ音

キーを押す度に、出るビープ音を【OFF】にすることができます。

1. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
2. bP-on (ON)またはbP-oF (OFF)が表示されるまで、▲・▼キーを押します。
3. ダイヤルを回して、ビープ音のON/OFFを選択します。
4. PTTキーを押して、設定を終了します。

スキャンスキップ

メモリーモードでスキャンしないチャンネルを設定します。
このセットメニューはメモリーモードでしか表示されません。

1. (F)キーを押しながら▲キーを押します。
   メモリーモードになり、**M**と表示されます。
2. ダイヤルを回して、スキャン実行中にスキップするチャンネルを設定します。
3. (F)キーを押しながら(MONI)キーを押します。
4. SP-oFが表示されるまで、▲または▼を押します。
5. ダイヤルを回して、SP-onを選択します。
   スキャンスキップ機能を使用しないときは、SP-oFを選択します。
6. PTTキーを押して、設定を終了します。

表示されていた小数点が消え、スキャン実行中に、設定したメモリーチャンネルがスキップされることを示します。

7 ケーブルクローン機能を使うには

本機1台中にメモリーおよび設定した機能を別のDJ-190にコピーできます。データの送信元のトランシーバを親機、データの送信先のトランシーバを子機とします。両端に3.5φのステレオプラグが付いた3芯ケーブルを用意してください。

1. 親機、子機の電源を切ります。
2. ケーブルの一端を親機のSP端子に、もう一端を子機のSP端子に挿入します。
3. 親機、子機の電源を入れます。
4. 親機、子機の(MONI)キーを押しながら、PTTキーを3回押します。両機にCLonEが表示されます。
5. 子機の(MONI)キーを押します。rEAdYが表示されます。
6. 親機のPTTキーを押します。PUShが表示されます。もう一度親機のPTTキーを押すと、データのコピーを開始します。
7. コピー実行中は、親機にはSEndが、子機にはGEtが表示されます。コピーが終了すると、子機にEndが、約2秒間表示されます。
8. 親機、子機の電源をOFFにします。
9. それぞれの端子から、ケーブルを取り外します。

10 オプションリスト

本機には、以下のオプションがあります。

- ●EDH-16:乾電池ケース(単3乾電池4本使用) ¥1,500
- ●EBP-33N:ニカドバッテリーパック(4.8V 650mAH) ¥4,500
- ●EBP-34N:ニカドバッテリーパック(4.8V 1200mAH) ¥6,800
- ●EBP-35N:ニカドバッテリーパック(7.2V 900mAH) ¥8,000
- ●EBP-36N:ニカドバッテリーパック(9.6V 650mAH) ¥9,500
- ●EBP-37N:ニカドバッテリーパック(4.8V 700mAH) ¥4,000(標準装備)
- ●EJ-28U:トーンスケルチユニット ¥4,800
- ●EDC-36:アクティブフィルター付シガーライターケーブル ¥2,000
- ●EDC-62:バッテリーチャージャー(ウォールチャージャー) ¥2,300(標準装備)
- ●EDC-59:バッテリーチャージャー(急速型) ¥9,800
- ●EMS-9:スピーカーマイク ¥4,500
- ●EME-12:VOX付ヘッドセット(ヘッドホンタイプ) ¥6,500
- ●EME-13:VOX付ヘッドセット(インナータイプ) ¥6,500
- ●EME-15:VOX付タイピンマイク ¥5,500
- ●EME-6:プチ型イヤホン ¥1,500
- ●ESC-28:ソフトケース(EBP-33N使用時) ¥2,000
- ●ESC-29:ソフトケース(EBP-37N,EDH-16使用時) ¥2,000
- ●ESC-30:ソフトケース(EBP-34N/35N/36N使用時) ¥2,000
- ●EBC-6:モービルブラケット ¥1,800

11 アフターサービス

- 保証書：保証書には必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)を記入し、記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 保証期間：お買い上げの日より1年間です。正常なご使用状態で、この期間中に故障が生じた場合は、製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。保証書の規定に従って修理致します。
- 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、有料で修理いたします。
- ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

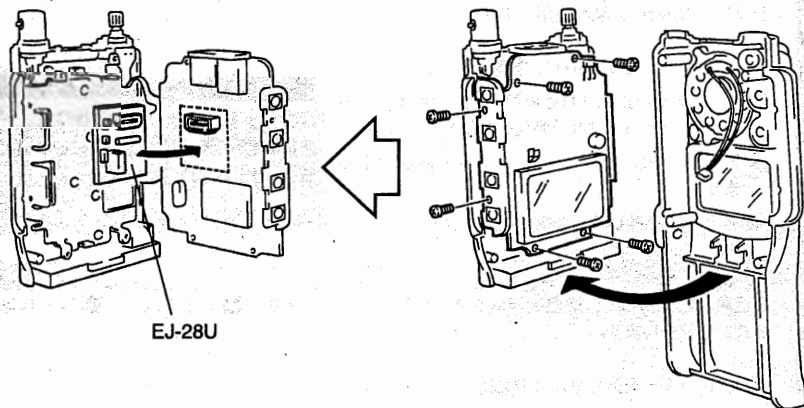
12 リセット

リセット機能を実行すると、本機を初期状態に戻します。

1. (F)キーを押しながら、電源を入れてください。
   なお、リセットを実行すると、メモリーに保存された情報は消去され、チャンネルステップは12.5kHzになります。

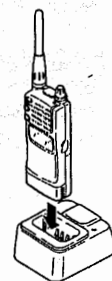
13 EJ-28U

オプショントーンスケルチユニットEJ-28Uをセットすると、トーンスケルチを使用できます。

14 EDC-62<普通充電器>

■充電方法

EDC-62の両サイドの溝と本機の両側の溝を合わせて挿入してください。
ランプが点灯し充電が開始されます。

■取扱方法

- 充電中は、必ず本機の電源スイッチをOFFにしてください。
- 本機以外では、絶対使用しないでください。
- 充電時間は、蓄電池の種類・消費状態によって異なります。充電時間については、各蓄電池の取扱説明書を参照してください。
- 本機の充電端子を金属片等で短絡させると、本機にダメージを与える場合があります。
- 蓄電池を逆方向に挿入しないでください。

■蓄電池について

本機で充電できる蓄電池は次の通りです。

EBP-33N(4.8V 650mAH)
EBP-34N(4.8V 1200mAH)
EBP-35N(4.8V 900mAH)
EBP-36N(9.6V 650mAH)
EBP-37N(4.8V 700mAH)

8 機能早見表

機能早見表

キーボタン	押す	Fキーを押しながら押す	押しながら電源を入れる
POWER	電源 ON/OFF	リセット	-
▲	音量アップ	VFO⟷メモリー	(注1)
▼	音量ダウン	メモリー書き込み	-
F	ファンクション入力	-	リセット
PTT	送信	-	-
LAMP	ランプ ON/OFF (押し続けるとスキャンON)	送信出力 大(H)/小(L)	ランプ常時点灯
MONI	スケルチ開	セットモードをONする	バッテリーセーブON/OFF

(注1) ✪ が点灯しますが、機能はありません。

セットモード・メニュー

(F キーを押したままの状態で MONI キーを押します。設定を終えたら、PTTキーを押して終了します。)

メニューNo. (▼/▲キーで選択)	液晶表示	出荷時の設定	設定機能	設定値(ダイヤルで設定)
無(0˜31)	SQLch	0	スケルチ	0～31
1	LoC	切	ロック機能	KL:キーロック FL:周波数ロック
2	St (数値)	20.0(注2)	チャンネルステップ	5kHz～30kHz
3	ShIFt	無	シフト	+ −
4	F	0.60	オフセット	0.00～99.995MHz
5	t-SQL	切	トーン(CTCSS)	T:エンコーダ TSQL:トーンスケルチ
6	t (数値)	88.5	トーン周波数選択	標準50波より
7	APo	切	オートパワーオフ	APO表示で入
8	Lo-	oF (OFF)	入感時送信防止	oF (OFF)/on (ON)
9	t-	oF (OFF)	タイムアウト・タイマー(TOT)	off、30～450秒
10	tP-	05	TOTペナルティ	0～15秒(TOT使用中に有効)
11	tb-	oF (OFF)	呼出ピー音	oF (OFF)/on (ON)
12	bP-	on (ON)	ビープ音	on (ON)/oF (OFF)
13(注3)	SP-	oF (OFF)	スキャン・スキップ	oF (OFF)/on (ON)

(注2) リセット時は、12.5kHzステップになります。
(注3) メモリーチャンネル表示時のみ有効

9 定格

<一般仕様>

周波数範囲	144.000～145.995MHz
チャンネルステップ	5,10,12.5,15,20,25,30kHz ステップ
メモリーチャンネル	40チャンネル
アンテナインピーダンス	50Ω 不平衡
周波数安定度	±5ppm
マイクロホンインピーダンス	2KΩ
電波形式	F3(FM)
電源電圧	DC4.8～13.8V(標準DC4.8V)
消費電流 送信時H(DC13.8V)	約1.5A
送信時H(DC4.8V)	約1.0A(EBP-37N使用時)
受信待ち受け時	約50mA
使用温度範囲	−10℃～+60℃
接地方式	マイナス接地
寸法 W×H×D (突起物含まず、EBP-37N含む)	57×151×27mm
重量(EBP-37N含む)	約300g

<送信部>

送信出力	
H:DC13.8V(外部電源)	約5W
H:DC4.8V(EBP-37N)	約1.5W
L:DC4.8V(EBP-37N)	約0.5W
変調方式	リアクタンス変調 FM
スプリアス	−60dB以下
トーン周波数範囲	67.0～254.1Hz(選択可能数 50)
マイクロホン形式	コンデンサーマイク
トーンエンコーダ	標準装備
電流消費	H:13.8V 約1.5A 出力電力:約5W H:7.2V 約1.5A 出力電力:約3.5W H:4.8V 約1.0A 出力電力:約1.5W
最大周波数偏移	±5kHz

<受信部>

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	12dB SINAD:-16dBμ以下
第一中間周波数	21.7MHz
第二中間周波数	450kHz
選択度(-6dB/-60dB)	±6kHz以上±12kHz以下
低周波出力	200mW以上(THD 10%時8Ω)
CTCSSトーンスケルチ	オプション(EJ-28U)

15 EBP-37N<Ni-Cd蓄電池>

- 出荷時には、EBP-37Nは充電されていません。
- 通常の使用で約300回の充電が可能です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は、EBP-37Nを交換してください。
- DC-INにDC13.8Vを接続すると、EBP-37Nを本機に装着したまま充電できます。

注意

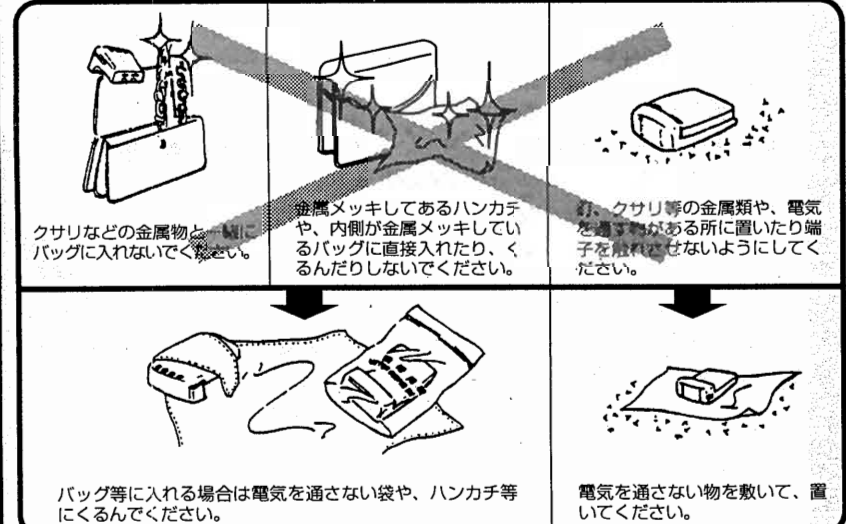
1. EBP-37NをEDC-62で充電するのにかかる時間は、最大12時間です。
2. 充電は0℃～45℃の温度範囲内で行ってください。これ以外の温度では、充分に充電されなかったり、EBP-37Nの性能を劣化させる原因になります。
3. EBP-37Nの改造、分解、火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
4. 必要以上の長時間の充電(過充電)はEBP-37Nの性能を低下させますので避けてください。
5. EBP-37Nの保存は、-20℃～+45℃の乾燥した場所を選んでください。これ以外の環境での使用は、EBP-37Nの漏液や、金属部のサビの原因になりますので避けてください。

⚠**警告** EBP-37Nの端子は絶対にショートさせないでください。機器を損傷させたり、EBP-37Nの発熱により、やけどの恐れがあります。

Ni-Cd

ご使用済みのEBP-37Nは貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないでニカド電池回収協力店へご持参ください。

*EBP-37Nを持ち運びするときは、付属の袋に入れてください。

16 申請書の書き方

本機によりアマチュア無線局を申請する場合は、市販の申請用紙に下記の事項を間違いなく記載の上、申請して下さい。

無線局事項書及び工事設計書（裏面）

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の形式

周波数帯	空中線電力	電波の形式	周波数帯
144M	20	F3	

22 工事設計	第1送信機
変更の種別	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号	KV262○○○○○
発射可能な電波の型式周波数の範囲	
変調の方式	
定格出力	W
終段管 名称個数	
電圧	V
送信空中線の型式	単一型
その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致

技適証明発行願

送信機番号	技術基準適合証明番号（注）
記入例	
第1送信機	KV262○○○○○+
第2送信機	
第3送信機	
第4送信機	
第5送信機	
第6送信機	

※「KV262○○○○○」は、トランシーバー本体に貼られている「技術基準適合証明ラベル」の番号をご記入下さい。

17 送信機系統図